

# 『神君伊賀越え』

● 13：00～14：30

「本能寺の変、伊賀越えの真実を追う」

● 14：45～16：00

つつきはっけん研究会中間報告

「家康逃走路（堺～草内）の調査研究」



# 本能寺の変

天正10年(1582)6月2日早暁

**光秀** : 謀反を起こす

**信長** : 本能寺に宿泊中、襲われ  
四十九年の人生を終える

**家康** : 上方遊覧が終わり、御礼言上のため  
堺の妙國寺を発ち京都へ向かう  
河内飯盛山付近(現:四条躰)でこの変報を受ける



**家康一行** : 軍勢もなく平服、34名

酒井忠次、石川数正、本多正信、**本多忠勝**、榊原康政、  
井伊直政、天野康景、大久保忠佐・忠隣、高力清長、  
**服部半蔵**、渡辺半蔵、鳥居忠政、長田伝八郎 等

**長谷川秀一** 上方遊覧案内役

**穴山梅雪** 家康従者となった駿河江尻城主

**茶屋四郎次郎** 京都から急ぎ変報を届けた

# 本能寺の変～その時まで

【 天正10年5月4日 幕府設立を拒否 】 28日前

■ 信長は、正親町天皇(おおぎまち)からの「将軍」就任と「幕府」設立要請を断る

「誠仁親王に譲位」を迫る ・京暦→尾張暦 ・平姓の将軍

【 5月7日 長宗我部攻め 】 25日前

■ 友好的関係の四国「長宗我部元親」、その窓口は光秀

■ 信長が天下統一の為に四国攻めを突然決定  
光秀にとって、深刻な事態

【 5月17日 徳川家康の接待 】 15日前

■ 安土城を訪れた家康・梅雪の接待役を光秀に命じ3日間の歓迎

■ 接待不手際があり、**信長は光秀を途中解任**

■ 秀吉援軍、秀吉の下位にされた事で光秀の**自尊心は大きく傷つく**

【 5月26日 毛利出陣準備 】 5日前

■ 光秀は秀吉援軍のため丹波の城に戻り、中国出陣準備

■ 光秀は領地を全て取りあげられ、敵の毛利家の領地を代わりに与えられる「**国替え**」

# 本能寺の変～その時まで

【 5月29日 信長、本能寺へ 】 2日前

■ 信長は安土城で中国地方に軍勢派遣準備中夕方本能寺入り

■ 家康は安土城の接待後、京都を観光、

この日は堺の町を見物し茶人 津田宗及の接待を受ける

【 6月1日 「敵は本能寺にあり」 】 前日

■ 本能寺の信長は公家勸修寺晴豊と対面し、茶器を披露

■ 光秀は、夕方13000人の兵を率いて丹波亀山城を出発

出発前に、家臣である 斎藤利三、明智(左馬介)秀満、

藤田伝五 などと共に、「本能寺の変」作戦会議

■ 行軍中の光秀は突然「敵は本能寺にあり！」と号令をかけ、軍勢を反転し、京都に向かい、軍勢を二手に分け密かに本能寺を包囲

※ただ、兵士や武将の多くは、京都に向かっているのは信長に軍勢の確認をして貰うためとっていたようで、本能寺を包囲する命令を受けた後も、討つ相手は家康だと思っていた者もいたという (本城惣右衛門覚書)

# 本能寺の変～その時～

【 6月2日早朝 本能寺の変 】

織田信長

物音で目が覚めた信長は、最初は家臣のケンカと思ったが、すぐに騒動に気付く

小姓の森蘭丸に「これは謀反か？ 如何なる者の企てぞ」と聞き、「明智が者と見え申し候」と答えると、一言「是非に及ばず」と答えたと言う（信長公記）

その後、弓を持って応戦し数本の矢を撃つが弓が折れる  
そのため薙刀に持ち替え、敵を突き伏せるなどして戦うが、槍傷や左肩に鉄砲の銃撃を受けたため、応戦を断念  
奥の部屋に入り、森蘭丸に寺に火を放たせ、そのまま自害



# 本能寺の変～その時～

【 6月2日早朝 本能寺の変 】

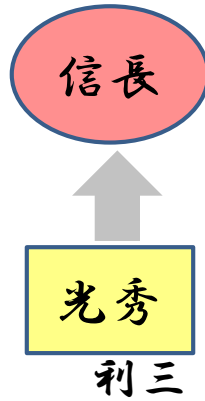
## 明智光秀

- 本能寺討ち入りの指揮を取り、本能寺の炎上を確認 その後、信長の遺体を探すが、最後まで見つからず
- 信長の長男 織田信忠 が少数の兵と共に「二条御所」に入ったため、これを包囲して攻撃
- 一方で堺の町にいる家康に追っ手を差し向け、各地の街道を封鎖
- 戦闘終了後に朝廷公家に危害を加えない事などを告げる

## 徳川家康

- 家康配下の三河武士、京都で呉服商を営む茶屋四郎次郎が、「本能寺の変」を目撃、店の金を持って家康に急変を告げに行く
- 家康はすぐに脱出を考えるが、街道はすでに明智軍に塞がれる
- この時、家康は「仕方がない、**近くの寺で自害しよう**」と言いだし、お供の本多忠勝に一喝されたとも言われる
- その後、お供の武将と共に今後を協議し、伊賀の山中を抜けて脱出することを決める

# 本能寺の変 明智光秀 謀反の背景・動機・理由



- 1. 天下布武
- 2. 楽市楽座、人事改革
- 3. 神願望（朝廷軽視）
- 4. 明への進出意向

- 1. 正義、厳格、冷徹
- 2. 革新、急激、変更
- 3. 上る為に何でも

- 1. 義昭・信長士官
- 2. 比叡山焼打ち
- 3. 複合的な動機

- 1. 保守的、優しい、忠実
- 2. 教養文化人(歌・茶道)
- 3. 有職故実(儀式、朝廷)

## 単独

### 怨恨

- 1. 信長に感謝(天正9:明智軍法)
- 2. 接待役から毛利攻めに、国替え
- 3. 四国政策変更:元親に面目なし

### 野望

- 1. あめが下しる(惟任退治記)
- 2. 一夜なりとも天下の夢(川角)
- 3. 日本の主となる(フロイス)

### ノローゼ

- 1. 朝廷への非道阻止
- 2. 早い出世、ノルマプレッシャー
- 3. 疲労困憊

### 一族存続

- 1. 土岐明智一族存続・復活

## 黒幕

### 秀吉

- 1. 最大の受益者
- 2. 信長を恐れ光秀はライバル
- 3. 中国大返し手回しの良さ

### 家康

- 1. 信長同盟
- 2. 嫡男・正室が殺害
- 3. 武田氏滅亡で不要

### 元親

- 1. 光秀が信長取次
- 2. 本願寺降伏後、信長方針変更

### 義昭

- 1. 信長から京都追放
- 2. 征夷大將軍は許せず
- 3. 光秀の旧主人

### 朝廷

正親町天皇  
近衛前久  
勧修寺、兼見

### イエズス会

信長神格化  
を危険視

### 本願寺

1. 永年の仇敵  
2. 講和後も抵抗

# 伊賀越えの概要

## 「神君伊賀越え」

**家康一行**:三日間の**逃走ドラマ**

苦難の道中、襲撃、協力者・道案内人

飯盛山～尊延寺～**京田辺**～**宇治田原**～伊賀～白子～岡崎

**謎の京田辺**:多数ある逃走ルート

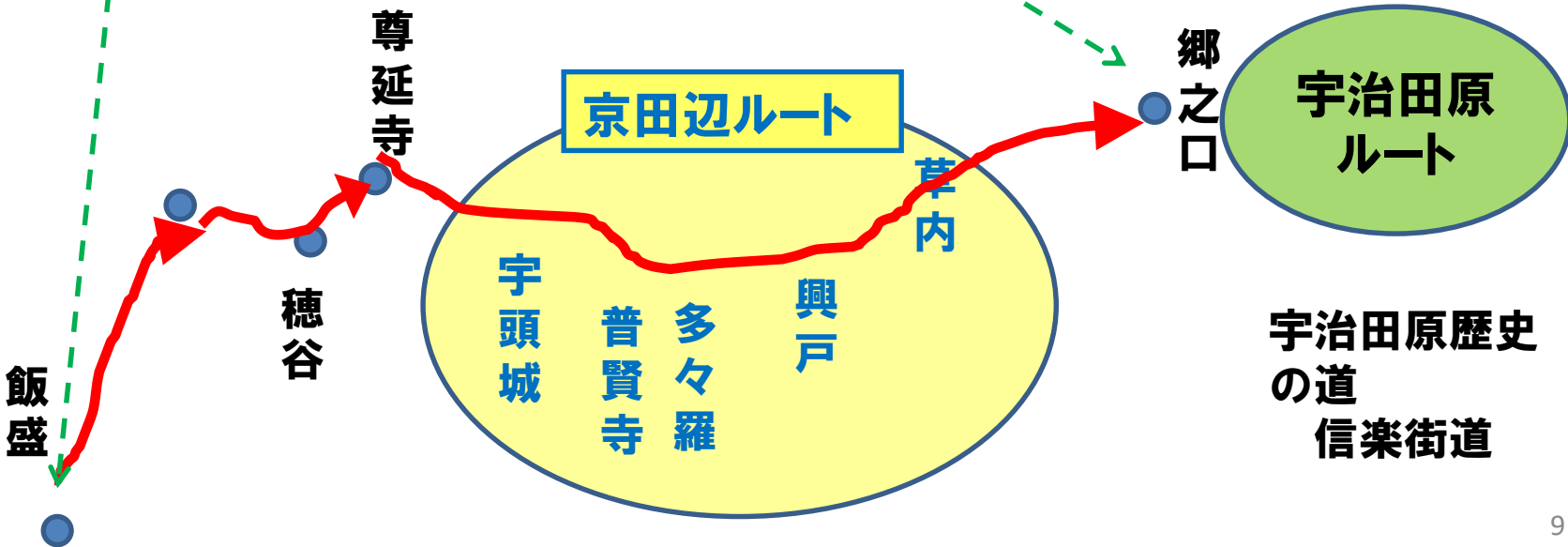
**穴山梅雪**:主従十二名は別行動を取り、家康一行の後で、木津川にさしかかり、飯岡渡し付近で土民の襲撃を受け自害する

天正10年6月2～4日 家康一行 34人 全行程 210 km

第1日～2日目	堺 ～ 京田辺、宇治田原	50 km
	宇治田原 ～ 小川城（信楽）	24
第3日目	小川城 ～ 白子	65
	白子 ～ 岡崎（海路）	70



# 伊賀越え経路(堺～岡崎)



# 主な出来事・経過

月日	時刻	出来事	場所	
6月2日	4時	本能寺の変が起こる		
	5時	家康、信長に上方遊覧の御礼に、京都に向かう	堺、平野、八尾	
	12時	茶屋四朗次郎、本多忠勝に「信長自刃」を報告	交野	
	14時	忠勝、 <b>家康に変を伝える</b>	飯盛西麓	住吉平田神社
	16時	伊賀越えで三河に帰ることを決め出発	茶屋：銀子、本多：蜻蛉切り槍	伊賀ルートを選択 (服部半蔵)
		長谷川秀一：恩顧者に連絡、道案内を依頼	星田、倉治	河内、宇治田原、信楽、大和
	20時	<b>普賢寺の百姓新八</b> と出会う 穂谷白井家：夕食・休息	穂谷	山中道に迷い百姓と知り家康、安心して身分を明かす

# 主な出来事・経過

月日	時刻	出来事	場所	
6月3日	3時 ～	新八、穂谷の百姓忍兵衛の案内を受け草内の渡しまで	尊延寺 宇頭城普賢寺 多々羅・興戸 草内渡し場	家康 証文を授かる
	8時	飯岡 小山太郎左衛門政清らに助けられ、木津川を舟で渡る	木津川 (増水中)	九寸七首 を授かる
	10時	新主膳正末景 市野辺出雲守 奥田仁義らが出迎え、 宇治田原山口城へ	市辺、青谷、 郷之口	山口城主 山口甚介 秀康

# 穴山梅雪



■ 甲斐武田家武将：武田信君

母：信玄の姉 南松院

正室：信玄の三女 見性院（勝頼の姉）

■ 天正10年2月 信長、家康は武田征伐を進める  
梅雪、家康を介し信長に帰順を決意

※信玄亡き後、勝頼と不仲、老臣の横暴さを憎む

条件 ①武田家の継承 ②甲斐の領土の確保

■ 3月 家康を案内し、[天目山の戦い]で勝頼が滅亡

■ 6月本能寺の変後、甲斐に帰ろうとしたが、家康とは一緒に逃走

※甲斐の領土所有、金品を多く持っていた梅雪一行は、家康従者に強奪されることを恐れ、徐々に家康から離れる（殿：しんがり）

■ 梅雪一行は、落ち武者狩りの土民に襲撃されて、川は増水、渡るのが困難となり、木津川飯岡の渡しで自害

■ 土地の人々が憐れんで飯岡の渡し西岸に葬り塔を築いて供養を行うが洪水でたびたび崩れるので、飯岡蓮華寺に改葬し、塔を移す

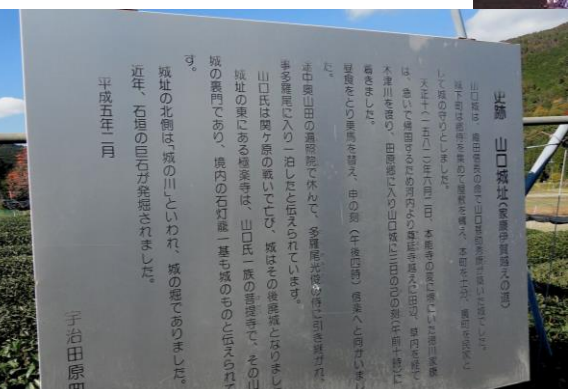
■ 明治8年2月蓮華寺は廃寺となり現在の飯岡共同墓地へ塔を移す

# 「苦難の逃走」 木津川 草内渡し～市辺

月日時刻・場所	出来事	解説・注釈	
6/3 8時 草内渡し	長谷川秀一が 山口甚介秀康 (山口城主)に 協力依頼	家臣 新主膳正末景 市野辺出雲守 奥田仁義らが 一行を出迎え	甚介は多羅尾光俊 (小川城)の六男 京都所司代報告 宇治田原荒木 奥田良太郎家系図
木津川	家康、川を渡る	小山政清が舟 を出し助ける	小山家家系図
市辺、青谷			城陽人夫 6～70人協力



山口城跡



# 「苦難の逃走」 山口城～奥山田

月日時刻・場所	出来事	解説・注釈	
6/3 10時 郷之口	山口城(宇治田原城)に入る 昼食後12時出発	役に立つ馬と交換	宇治田原地侍 永谷永広が 道案内
14時 奥山田	遍照院で休息 今後の道筋・警戒 手段の相談	多羅尾二男、 三男手勢と 共に	

徳川家康が伊賀越えの時休んだ遍照院  
 天正十年(一五八二年)六月二日未明、京都本能寺に止宿中の  
 織田信長が、家臣明智光秀に襲われ自刃した。(本能寺の変)  
 この時家康は信長のすすめて堺見物をしていたがそれも終り  
 引き返そうとしていた矢先、本能寺の変の急報をうけた。  
 驚いた家康は、とにかく本國三河へ帰る事にし、危険は多い  
 が伊賀越えの道を選んだ。  
 守口、枚方と不眠の行動で尊延寺を経て草内で木津川を渡り  
 郷之口の山口城へ入った。  
 ここで昼食をとり、案内人を得て物見の者と連絡をとりなが  
 ら進み、街道沿いの遍照院へ着いた。  
 ここで新しい案内人も出来、朝宮を通る頃には日もとつぶり  
 暮れていたが無事多羅尾へ着いた。  
 ここで夕食をとり一睡の上伊勢の白子浜をめざして出発した。  
 このあたりから守りの人もふえ白子浜に安着した。ここから船  
 で三河へ帰った。六月四日であった。  
 家康が伊賀越えの時立寄ったと言つ真言宗遍照院は元亀元年  
 (一五七〇年)の建立である。  
 境内に紅梅の古木があり、花の咲く頃には訪れる人も多く、  
 又境内の上方の墓地の傍に横の古大木と鎌倉時代の作とも言わ  
 れている無縫塔(町指定文化財)があり見学者も多い。

平成六年三月

宇治田原町商工会



遍照院

# 「苦難の逃走」 小川城

月日時刻・場所	出来事	解説・注釈	
21時 小川城 6/3 一泊	信楽小川城 多羅尾光俊 (甲賀五十三家)	城内の愛宕大権現(神体將軍地蔵)を献上  江戸守護神の愛宕大権現に	家康、館に入らず、干し柿・新茶、村人総出で赤飯でもてなし、漸く館に入る 赤飯を手掴みで食べる



# 「苦難の逃走」 甲賀～伊賀～関

月日時刻・場所	出来事		解説・注釈
6/4 4時 御齋峠 (おとぎ) 桜峠	服部半蔵は、 多羅尾光俊に連絡し、 忍者三百人集める (半蔵は三河生まれ)	伊賀侍 柘植一党が務 めを果たす	滋賀県甲賀市 三重県伊賀市 県境
9時 音羽 (おとわ)	石原源太らの襲 撃	家康方の 磯野吉兵衛が 活躍	阿山町音羽 伊賀忍者の本拠





# 「苦難の逃走」 甲賀～伊賀～関

月日時刻・場所	出来事	解説・注釈	
12時 徳永寺	休息	後年葵の紋の使用許可される	伊賀町 柘植町
加太越え (鹿伏兎)	山賊の住処とする 山中を突っ走る	柘植村二、三百 伊賀衆百名お供	関町加太 最大の難所
17時 瑞光寺	しばし休憩	権現柿、和尚と 家康は幼馴染み	関・木崎町



# 「苦難の逃走」 白子～岡崎

月日時刻・場所	出来事	解説・注釈
6/4 21時 白子浜	伊賀・甲賀衆	廻船業 角屋七郎次郎
三河大浜		三河大浜まで 64km
岡崎城	到着後、軍を集結し上方に向かう (大雨)	14日 鳴海まで来たら秀吉が光秀討伐の報せを受け、引き返す
		6/13 山崎の合戦 光秀死去



# 「伊賀越え」の成功要因

## 情報伝達力

組織力  
迅速性  
一足先情報

## 状況判断力

冷静沈着  
大胆  
慎重



## 協力体制

### 道案内人

- ・茶屋四朗次郎(銀子)
- ・長谷川秀一
- ・集落の村長、村人、人夫
- ・甲賀(多羅尾光俊)
- ・伊賀忍者(服部半蔵)

## 人心掌握力

家臣との相互信頼  
恩義を大切に

## 身代わり

影武者  
穴山梅雪

# 家康の人間性

## 性格

大らか、大胆  
用意周到  
慎重、実直  
用心深さ  
忍耐強さ

## リーダーシップ

危機に力を発揮  
人のこころ掌握  
恩義の大切さ

人に仕える、人質  
失敗、苦難経験



人の一生とは重き荷を負うて  
遠き道を行くが如し

## 組織力

無駄のなさ  
実利、協調力  
末永く泰平を

## 健康

剣術で鍛える  
粗食、質素儉約  
医薬調合